目黒稲門会会報

（題字：眞仁田　勉　初代会長）

第94号　2022年3月

発行人：後藤　克彦　編集長：猪名川　一雄　事務局長：吉野　博明
事務局：〒153−0053　目黒区五本木2−22−6　Tel 03−3713−1684
ホームページURL：http:// me96tomon-waseda.la.coocan.jp/

2022年新年会を開催

2022年1月16日（日）、ホテル雅叙園東京で、新年会が開催されました。

当日は早稲田大学から小林　誠校友会副事務局長兼総長室校友連携担当課長にご出席頂きました。出席者総数48名。

午後4時、石川智子副事務局長の司会により開会。まず後藤克彦会長より新年の挨拶（別掲）があり、続いて小林誠校友会副事務局長兼総長室校友連携担当課長よりご挨拶頂きました。新型コロナウイルスの影響で困窮する学生に対して、校友から9億円を超える支援があった事に感謝を述べられました。また、昨年は稲門祭・ホームカミングデーを新設の村上春樹ライブラリーから配信した事、メディアを通じて早稲田大学は学問を究めるのみならず、人のつながりから文化を生み出す場として紹介された事についてご報告頂きました。

＜会長挨拶＞

明けましておめでとうございます。

コロナ禍で行動制限されているなか、会の活動もZoomによるコミュニケーションが中心でした。その間、会に貢献なされていた先輩との哀しいお別れもありました。しかし元気な後輩の多数入会もあり、いつでも活発に活動できる状態になっております。これまで俳句部会では毎月投句による先生からの添削と発表。囲碁部会ではオンラインでの大会、三密を避けながら歴史や文化施設まわりを楽しみながらのウォーキング活動。最近、麻雀部会では隔月例会、スポーツ観戦部会では席を空けての野球の早慶戦やラグビーの早明戦観戦。ゴルフ部会有志によるプレー，有志による畑での農作業等と少しずつではありますがマスクを着けて注意しながら活動が始まりました。しかし今年になって国内でも急に新型コロナのオミクロン株比率が高くなってきました。気の緩みから外出する際にも、今まで持っていた強い危機感が薄れ、さほど注意しなくなっています。

もう一度、気を引き締めてコロナ感染に気をつけながら目黒稲門会のモットーである元気に明るく楽しくを実践して仲良く2022年を乗り切っていきたいと思っております。今年もよろしくお願い致します。

第1部講演会では、「早稲田とのご縁」と題して浅海敏之相談役にビデオで講演頂きました。

＜講演要旨＞

明けましておめでとうございます。このたび、早稲田との縁、目黒稲門会設立の経緯を話してもらえないか、そのように後藤会長、金井幹事長、吉田前会長から頼まれ、お話させて頂く事になりました。

私の母は早稲田鶴巻町の酒屋の生まれで、私も幼少の頃から大隈講堂の前をよく行き来した。大隈講堂に憧れたのか、いつの間にかラジオの早慶戦を聞いて早稲田を応援している自分がいた。早稲田に中学はないのかと問い、入学することになった。ある日、ラグビーの真似事をしていたところ声をかけられ、本格的にラグビーを始めた。高等学院に入学してラグビー部に入部、四月の試合に出場して勝利。しかし練習中に怪我、治療に苦労して選手としては第一線を退いた。選手でなくともよい、手伝ってくれないかと請われ、東伏見の練習場でチームを支えた。卒業して早稲田大学への入学手続きのため、友人と大学を訪れた。その時、今の高田牧舎の辺りで先輩からラグビー部の新入部員として必ず来るんだ

よと言われた。正直、内心は少し戸惑ったが、四年間ラグビー部での生活の中で、明治に勝ち、慶應に勝ち、オール九州にも勝って日本一になれた。全国優勝したマネージャーとしての経験を伝えていってくれ、そう言われて私はOB会の幹事になった。

その後、奥島孝康先生がラグビー部長になられた。奥島先生は後に総長として、早稲田にとって特別な125周年の行事に尽力された。足元を見れば当時の東京都23区の中には、まだ地域稲門会が無いところがあった。

平成11年9月、大隈会館に稲門会設立に関わるメンバーが集められ、私も縁あって加わった。稲門会とは何たるか、コンバットマーチを作曲した三木佑二郎氏の説明を聞いた。まずは役員を決めなければならない。最年長の樋口先輩が家に2本ある電話をひとつ使ってもいいと仰り、一番大変な事務局長を引き受けてくれた。私は有難くも幹事長として推薦を受け、次第に役員会の基盤が決まっていった。規約については役所に勤めていた初代麻雀部会長の土方さんが手掛けた。いよいよ会長を決めることになって、鈴木都知事の時に副知事だった眞仁田　勉さんを訪ねた。眞仁田さんを中心に、定期的に地元の住区センターで役員会が開かれるようになり、夜には三々五々集まって夕食会が始まる。

会報については、当時の副事務局長だった岩崎（正）さんがA4一枚で刷って「エクスプレス」という名で配っていたものが、今の会報につながっている。記事の内容も充実し、目黒で採れたタケノコをモチーフにして会の紋章ができた。やがて東京都23区支部ができた。保井さんには支部の初代事務局長として大変お骨折り頂いた。

第二代会長の加藤さんは富士通の副社長、熊本県人会代表を務められた人だった。最初に電話した時は金沢に赴任していたが、奥様に伺ったところ、戻ってきたら、きっと参加させて頂くでしょうとの事だった。加藤さんは、行事が終わると必ず反省会を招集する。これは当会の慣例となった。

第三代会長の八幡さんは武家の系譜で、ご先祖を訪ねて、井村さんと共に水沢へ旅行をした。その時、野球選手だった八幡さんのお父上の早稲田野球に関する資料が興味深かった。八幡さんが体調を崩された時は病状の進行が早く、最後にお会いする約束をしていたが、果たせなかった事が悔やまれる。八幡さんがお持ちだった上述の資料は、早稲田大学に寄贈されている。

第四代会長の大野さんとはよく一緒にゴルフをした。私が妻を亡くして落ち込んでいた時にもゴルフに連れて行ってくれたり、ご夫妻の心遣いで楽しい時間を過ごさせてくれた。本当に感謝している。

第五代会長の吉田さんとの出会いも不思議な縁によるものだった。加藤さんが声をかけて仲間に迎えた。偶然にも岩崎（正）さんと同じ学校の先輩だった。パソコンが堪能という事で事務局長を頼み、会の運営に大いに尽力してくれた。

そして現在の後藤会長、評議員として大学との接点も深い。大分舞鶴高の出身ということでラグビー文化にも親しまれたと思う。

個人的な話だが、孫が推薦で早稲田大学に進学できることになった。嬉しい事だ。自分の人生を振り返れば、あらゆる出会いが無ければ今の人生とはなっていない。ご縁、人のつながりのおかげで、不思議な、有難い事が続いてきた。

ご縁に感謝。つながりに感謝。早稲田に感謝。

ありがとうございました。

第2部では中上美代子副会長、田添麻友会員の司 会で新入会員の紹介と一問一答がおこなわれました。

左二人目から森下ふゆか、石橋義久、細貝　悠、正木英恵の各氏

左から松方正彦、泉　実紀子、大西真凛、杉村麻記の各氏

その後、各部会長による部会紹介、心の中での校歌斉唱、川崎秀一幹事による中締めの挨拶があり、新年会は終了しました。

今回の新年会開催は新コロナ感染対策に細心の注意を払って行われました。開催直前に第2部のプログラムを飲食無しとし、お弁当を持ち帰って頂きました。直前の変更にも係わらず多くの会員にご出席いただき関係者一同胸を撫で下ろしています。

（笠谷　記）

各部会からの案内・報告

ウォーキング部会「新春恒例　七福神巡り」

1月5日（水）、新春恒例の七福神巡りに9名が集まった。今年は「多摩川七福神巡り」である。

昨年の七福神巡りのための企画だったが、コロナで今年に延期された。14時に東急多摩川線・武蔵新田（むさしにった）駅改札外で落ち合い、出発。この一帯は南北朝時代に新田義興（新田義貞の次男）が、矢口の渡しで非業の死を遂げた物語の舞台だった。

駅近くの線路沿いに2か所、多摩川縁まで小1キロの範囲に5か所の七福神が点在する、比較的コンパクトにまとまった七福神巡りとなった…と思ったのは早計。大田区の広報ページの案内では七福神を巡る順番が示されている。その通りに歩いてみると結構行ったり来たりが多い。1時間余りで済むはずが2時間も掛かり、「話が違う」とのお小言も出た。

新田神社本殿前で

最初は「恵比須」・新田神社。文字通り新田義興を祀るところ。「布袋尊」は頓兵衛地蔵と言う祠。新田義興謀殺に協力した船頭が悔いて建てた地蔵だそうだ。お地蔵さんの顔が崩れて通称「とろけ地蔵」となった。義興の祟りだと言われているそうだ。

駅近くの「福禄寿」・矢口中稲荷神社から、「大黒天」・氷川神社へ。氷川神社はこの辺一帯の氏神で、8月の例大祭では広い境内が埋め尽くされると言う。

「寿老人」・延命寺を経て多摩川堤防脇の「弁財天」・東八幡神社へ。鳥居の横には「矢口の渡し」の標柱がある。東八幡神社から多摩川堤防に上がり、冬の夕日のまぶしさの中で対岸を眺めていると、凛とした爽快感に包まれた。7番目は、「毘沙門天」・十寄（とより又はとよせ）神社。ここも新田義興に従い矢の口の渡しで主君と共に謀殺された十騎の従者を祀った神社だそうだ。そのまま駅へ向かうと、再び新田神社の前に出た。最高気温5℃、風の冷たい一日だったが、好天の冬の日差しの中楽しく歩いた。

ウォーキング部会長　吉野博明

麻雀部会

丁度2年前の2月に欠席裁判で部会長の指名を受け、引き受けることにしましたが3月からコロナ騒動で部会活動自粛が続き、実質的な活動はできませんでした。昨年秋にコロナも落ち着いてきたことから、11月中に新規会員を募集し、12月に再開することを発表しました。部会長としての初仕事です。

再開に際し、今までと運営法を変更し、純粋に点数を競い懇親を深める場としました。

また、開催雀荘も従来の武蔵小山（品川区）から目黒駅近くへと変更しました。時間は従来通り、12時半開始、4時半終了の4回戦マッチです。

12月20日（月）の再開初部会には、新規会員3名を含め合計12名が参加、3卓での競技となりました。

会費は3000円で、1~3位・7位・BBに賞品を提供その他は参加賞を用意しました。

成績は、幹事疲れにも関わらず優勝・村上、2位・宮村、3位・大内、7位初参加の川崎、BB・鵜野の各氏でした。

1名が定刻15分遅れで到着したため、開始終了時間がずれましたが、全体としては成功裡に終えられたと自画自賛しています。

次回を2月21日（月）に開催する予定と発表しましたが、その後のオミクロン株蔓延の影響で3月に延期の方向で検討しています。

勝ち負けを気にせず、気楽に参加できる会ですので俺も、私もと思われる方は是非部会長あてにメールください。お待ちしています。

麻雀部会長　村上　柾

俳句部会

第140回　俳句部会
日時　2022年1月10日（月）14時～17時
場所　下目黒住区センター第一会議室

（順不同）

川井素山	錠剤の飛んでいづこへ寒の入
保井寶正	老木の桜伐採春遠し
佐久間喬	離陸機のかなた遠富士初茜
丸山酔宵子	来し方を廻るやけふの寒椿
吉田啓悟	裸木や明日ある子らをみるように
青木英林	飼犬の急（せ）かす散歩や日脚伸ぶ
山本草風	妻病い神にささげる若菜摘む
佐久間たか子	福寿草地に日輪の在るごとし
渡辺鯨波	ママ友の集う令和の若菜粥
後藤克彦	メダカ飼う深き水瓶初氷
原　晶如	スコップの音の聞こゆる深雪晴
青葉ひかる	朝焼けに富士の白雪拝みけり
永井正孝	水餅の揺れで測る今朝のなゐ
金森純女	初硯をんなと書きて天仰ぐ

年明けにコロナ感染が急拡大しました。

このため感染を危惧されて、句会を欠席され投句のみとした方が、4名おられました。

このペースで感染拡大するようであれば、また郵送による句会となってしまうのではと心配しています。

俳句部会長　佐久間　喬

囲碁部会

囲碁部会は、前号報告の通り、2021年10月よりインターネットの「呼びかけの碁」を使用して8名（保井、大久保、永田、菊地、小倉、狩野、小岩、市川の各氏）によるリーグ戦を開始致しました。

リーグ戦第1ラウンドの結果は、1位狩野氏、2位小倉氏、小岩氏、4位保井氏、大久保氏、永田氏でした。この第1ラウンドの成績に基づきハンデ（置石＋込み）を調整し、12月からは第2ラウンドを開始しています。12月末現在の暫定1位は保井氏、2位は大久保氏、小倉氏です。

この第2ラウンドの結果に基づきハンデをまた調整し、2月より第3ラウンドを開始する予定です。対局結果につきましては毎週目黒稲門会HPにてアップデートしていますので、ご覧くださいませ。

インターネットによる囲碁対局は、自宅で都合の良い時間に行えるので参加者から好評を博しています。

前号でお知らせした通り、囲碁部会は今後の取組として、「呼びかけの碁」とZoomを使った囲碁の入門者向けの研修会を考えています。内容的には置き碁では必須の星の定石を中心とする勉強会と13路盤を使った入門者同士の対戦です。13路盤は19路盤（リーグ戦）と違って入門者の方には解かり易い碁盤です。勝負も短時間でつきます。PCをお持ちの方であれば誰でもご参加できます。

二人以上ご興味のある方がいらっしゃるようなら、4月より開催致したいと思います。市川までお気軽にご連絡下さいませ。

囲碁部会長　市川　亘

相続よもやま話　その4

尾崎 充　（昭和63年　政経　公認会計士・税理士）

相続の仕事に関わっていると本当にたくさんのトラブル、間違い、勘違い、あるいは「こうしておけば良かったのに～」と言う様なケースに遭遇します。

相続にまつわるこの様なあるある事例を紹介してゆきたいと思います。

（前回までのあらすじ）目黒稲子さんは認知症になって高齢者施設に入居しその3年後に老衰で亡くなりました。49日法要等も終わった頃に目黒稲男（目黒稲子さんの弟）さんは品川花子（目黒稲子さんの姉の娘で代襲相続人）さんに相続財産である預貯金の詳細について聞いたところ預貯金の内容を一切開示しませんでした。目黒稲男さんは困ってしまいました。

（その後）目黒稲男さんは相続財産である預貯金8千万円の入出金履歴を金融機関から取り寄せて調べたところ目黒稲子さんが亡くなる数か月前から約7千万円もの多額の出金があることが判明しました。

この7千万円の所在を品川花子に問いただしても介護や治療費に使ったの一点張りで一向に埒があきません。

目黒稲男さんは致し方なく弁護士を立てて交渉する事を品川花子さんに伝えました。その後も双方で神経を擦り減らす壮絶なやり取りと紆余曲折があった後に品川花子さんは渋々とこの7千万円は自分の通帳に移動したと言う事を白状しました。漸くトラブルは決着したものの目黒稲男さんはすっかり疲れ果てるとともに親戚である品川花子さんとは絶縁状態になってしまいました。もう後の祭りですが目黒稲男さんは何をしておけば良かったのでしょうか？いくつか方法はあると思われますが、例えば法定後見人を立てておけば結論は違ったかも知れません。

（注）ありがちな事例を架空の話として作成しています。

（教訓）親戚も　お金が絡んで　絶縁に

会員の広場

七五三とお宮参り

中西元樹　（平成16年　法）

　親子3代連続で早稲田にお世話になっている我が家では、2016年に長男、2021年に長女と4代目候補が誕生いたしました。

　そして、去年の11月、目黒区内の由緒正しい碑文谷八幡宮で長男の七五三・長女のお宮参りを合わせて行いました。今回はその風景を報告させていただきます。

【碑文谷八幡宮鳥居】

【お参り後の家族写真】

当日は、出張カメラマンをお願いし、写真を撮ってもらいました。祈祷後に家族写真を撮っていただきました。

【境内での写真】

この写真を撮る際、長男は初めて昼間に来た（お祭りで夜に来たことがあります）ため、はしゃいで走り回ってどこかに行っていました。下の写真が戻ってきたときの写真です。

【境内を走り回る長男】

二人ともおかげさまですくすくと成長しています。今後の七五三などの催しについても目黒区内の寺社にて行おうと思います。

今後コロナが落ち着いたら目黒稲門会のイベントに連れていき、顔見世させていただければと思います。

スペイン巡礼の道を歩く：その４

吉野博明　（昭和45年　法）

1．巡礼の道で出会った人々

今回の旅では、一度も日本人に会わなかった。歩いている日本人は結構いるらしく、同宿した韓国人の巡礼者によると、沖縄から来た日本人と途中一緒になった。一日40㎞くらい歩く人で、とても早くてついていけなかったと言っていた。

アジア系では台湾人の父子二人連れ。父親は私より年配と見え、息子に連れられ初めての巡礼道で疲労困憊の態だった。

フロリダの女子大学院生：5日目、憧れのワインの本場、リオハ（Rioja）州都ログローニョ（Logrono）を目指す。ナバーラ州最後の町ヴィアンナ（Vianna）までほぼ20kmを歩く。街のカフェで遅めの昼食を取り、そこの主人に5㎞先のリオハ州都ログローニョまで行くバスを尋ねた。下の広場を指して、「あれが停留所」と教えてくれた。行ってみると、バスの時刻表や行先表示などはスペイン語が出来ない身にはまるで分からない。昼下がりの強烈な日差しの中で思案に暮れていると、「ハーイ、あんたもバスを待ってんの？」と英語が聞こえて来た。振り返ると陽気なヤンキー娘。フロリダに住む大学院生で、キューバ難民の子どもだからスペイン語は堪能だと言う。渡りに船と通りがかりの人にバスの便を尋ねてもらったが、何と2時間待ち。では、割り勘でタクろうとの話がすぐまとまった。女子大学院生殿に再び頼んで、先ほどのカフェに戻りタクシーを呼んでもらう。15分かそこらでログローニョにはいり、彼女は予約してある巡礼宿の前で下車、そのあと私も予約したホテルへ。タクシー代は割り勘のおかげで1,000円程で上がり、助かった！

左：ログローニョの早朝、石畳の巡礼路
右：モンテス・デ・オカの山越えの道から

ドイツの老婦人：9日目、ベロラード（Belorado、標高700m）から「オカの山越え」と言われる難所（1,000～1,150mの峠の上り下りの連続）を越え、アヘス（Ages 標高1,000m弱）村まで20km歩いた。

道端での休憩中、「ブエン・カミーノ（良い巡礼を）」の挨拶をすれ違う人と繰り返し交わす。
小柄な老婦人とそんな挨拶を2～3度繰り返していたが、峠で下りの道を探している時に追いついてきて、今度は英語で「巡礼の道はどっち？」と聞いてきた。私が見つけた方向を指すと、何度目かの「ブエン・カミーノ」と共に下りて行った。

アヘスの巡礼宿にチェックインして食堂へ行こうとしたら、先ほどの老婦人が通りかかり、お互いに「おや、ここにお泊りですか。じゃあ夕食はご一緒に」となり、久しぶりに、会話を楽しみながらの夕食となった。

彼女の年齢は60～70代か。何とイースターの日にドイツ・ケルンの自宅を出発したと言うから、その年は3月27日だったはず。今日まで丸々3か月かけて歩いてきたことになる。ドイツの人としてはかなり小柄な方だったが。

「なぜ歩き始めたのか？」の問いに対しては、「自分でも分からない。ある朝目覚めた時にふと歩こうと思っただけ。クリスチャンでもない。」とのこと。人のことを言えた義理ではないが、訳の分からない動機の人はいるものだと感心した。

話していると、かなりインテリらしく、途中の遺跡にまつわる英雄譚や明日の道筋にある原人発掘場所のことなど先刻ご承知の様子。挙句に、当時はギリシアに始まりイタリア、スペインなどの通貨問題が深刻な状態だったが、「貴方はこの問題をどう見ているか？」と問われて吃驚した。

2. 巡礼宿（アルベルゲ、Albergue）

巡礼宿は、公営や、修道院営、私営など様々。洗濯機のあるところもあればないところもある。但し、物干し場は必ずある。その他洗面所とシャワーブース、トイレもすべて共同である。ベッドは2段ベッドが標準で、小さいところで2台、普通は部屋に10～20台置いてある。男女区別なしが普通だ。困ったのは、鼾やお喋りが煩いこと（耳栓は必需品）と、トイレの換気が悪い宿では、部屋に悪臭が漂ってくること。2段ベッドの上は特に酷く臭気襲来の度に閉口させられた。

ベッドにはシーツは敷いてあるが、持参した寝袋を広げて寝る。一泊1,000円前後の格安宿泊所の秘密はここにある。

今回でスペイン巡礼記を終わります。実は終点サンチャゴ・デ・コンポステラまであと500㎞を残しています。何年掛かるか分かりませんが、チャレンジ！

目黒わが町自慢

南　井上雅乃（平成3年　法）

南。その名のとおり目黒区の南端、大田区との境目にある小さな町である。1・2丁目が環七通りの北側、3丁目が南側と分断されてはいるものの、いずれも戸建ての多い静かな住宅街だ。

町内に電車の駅はなく、最寄りとなるのは東急東横線の都立大学駅、目黒線の洗足駅、大井町線の大岡山駅。そのどれとも少し離れており、駅まで歩くとちょうどよい運動になる。

その昔は、高木町、富士見台、宮ヶ丘の三つの町だったものが、昭和の半ばに実施された住居表示により「南」となった。

富士見台と宮ヶ丘は現在、環七通りを走る東急バスの停留所の名称にその名を留めている。ちなみに富士見台バス停すぐの歩道橋の上からは、ビルの合間に富士山の雄姿を望むことができる。数多の先人たちが、この場所から同じように富士を眺めてきたのだろう。

また、南2丁目には高木神社がある。こじんまりした神社は、このあたりが碑文谷村子之神集落と呼ばれていた頃からずっと地域を見守ってきた守護神（祭神は大国主命）だ。丸っこいシルエットのこま犬たちがお社をお守りしている。境内には、環七通り付近から移設されたという天明八年（1788年）と記載の石の道標もあり、歴史が感じられる一角である。

高木神社

南1丁目には目黒区立原町小学校がある。ここは皇后雅子さまの母校である。

南は散歩が楽しい。丁字路が多いせいかもしれないが、角を曲がるたびにパッと視界がひらけ、ふとした小さな発見が待っている。そんなひとときもこの地に暮らす喜びである。

目黒の坂巡り

権之助坂　石川　智子（平成7年　文）

「目黒を知ろう」の第3弾[※1]として「目黒の坂」を特集します。初回は、目黒通り下り線でJR目黒駅先から目黒川へと緩やかに下る「権之助坂」です。

現在の権之助坂 ---JR目黒駅西口交差点先から見下ろす

目黒駅を起点として、多くのバスが行き交うので、目黒区民には最も親しみのある坂の一つではないでしょうか。誌面の都合上、名前の由来に絞ってご紹介します。権之助坂沿いのマンションに住んでいた幼少の頃、坂沿いにあったどんちゃか村幼稚園（現在は移転）、坂下にある下目黒小学校を卒業したご縁で執筆依頼を受けましたが、小さな私が母親から聞いていたのはこのような話でした。

行人坂（ホテル雅叙園東京から目黒駅に向かう坂）があまりにも急坂であったため、中目黒の田道にいた菅沼権之助という人が、往来や重荷の運搬に苦しむ人たちを楽にしようと、緩やかな坂を開いた。ところが、許可なく勝手に公共事業をしたと咎められ、村人達の懇願も虚しく、権之助は処刑される。権之助の功績を称えて、人々はこの坂を権之助坂と呼び、後世にその名を残した、と。

菅沼権之助の墓（目黒区中目黒5-6-14）

会報寄稿にあたり改めて目黒区HPを参照すると、菅沼権之助は貧しい村人のために年貢の軽減を幕府に嘆願し、その行為が罪に問われて刑死した、とも伝わるようです。由来は種々の説があるものの、庶民の負担軽減に努めた菅沼権之助を称えたものであるのは確かなようです。

地域の人たちの暮らしが少しでも楽になるように、工夫し改善に努める・・・現在では当然の、社会人として使命感ある行動ですが、これが認められなかった時代は今からたった数百年前。今の時代に生きる幸せを実感するとともに、苦しい時代を耐え忍び、未来を切り開いてきた先人達の不屈の魂に、感謝の念を新たにするものです。

※1　第1弾；目黒わが町自慢、第2弾：目黒の銭湯巡り（完）

会員ギャラリー

『スターバックス リザーブ®　ロースタリー 東京』
佐伯文子　（昭和51年　文）　油彩　F50号

中目黒の目黒川沿いにスターバックス社が世界で5番目に建てた『ロースタリー　東京』。目黒川の桜木を表現した4階までの高さのカスクは、焙煎された豆を一週間熟成保存させている。コーヒー豆は赤銅色パイプを通り中心カウンターの5種類のガラス容器に運ばれる。生豆が透き通ったパイプの中を汽車のように動いて焙煎されていくのを見て、皆が幸せな時間と空間にひたり、楽しく過ごしている様子を明るく描きました。

『椿』　水墨画　F6号
牧野武夫　（昭和40年　理工）

昨年暮れより体調を崩して、寝正月になりました。
さて椿ですが少しは、季節を感じていただけでしょうか。この椿は大野元会長の家の近くにある屋敷塀の上に顔を出していたものです。水墨画に興味のある方はご一緒に練習しませんか。牧野までご連絡ください。

新入会員

加藤千博（昭和58年　理工）
（横浜市青葉区在住）
自由が丘に勤務していることと先輩の勧めにより、この度、貴会に入会させていただきました昭和58年理工学部建築学科卒の加藤千博（かずひろ）です。会員の皆様と楽しい時間を過ごせれば嬉しく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

細貝　悠（平成31年　社学）
（目黒区洗足在住）
目黒稲門会の皆様、初めてご挨拶させて頂きます。平成31年に社会科学部を卒業し、手塚よしお衆議院議員の下で働いております細貝　悠です。
大学時代は探検部に所属し2年間幹事長を務め、主にナイル川源流調査を行っていました。最近は、家近くの東京浴場での温冷浴にはまっています。
先輩方が築いてきた稲門会の一員なることを誇りに思います。ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

校友会年会費の納入のお願い

目黒稲門会会員（一般）は、早稲田大学校友会の会員資格を有する方となっていますので、目黒稲門会年会費に加え、校友会年会費の納入をお願いします。
校友会費の使途については、早稲田大学校友会 HP の事業、会員サービスを、年会費納入方法については、早稲田大学校友会年会費・納入方法をご覧ください。皆様のご協力をお願い致します。

編集後記

2年ぶりに新年会が対面で開催されました。感染対策徹底のため、自由にお話するわけにはいきませんでしたが、あちこちで「お久しぶり」とのご挨拶がかわされていました。やはり顔をあわせるのはいいものだなと思いました。
新企画「目黒の坂巡り」を開始しました。タクシーの運転手さんには「下町は橋で覚えよ。山の手は坂で覚えよ」という言葉があるそうです。目黒にも多くの坂があります。原稿は会員の皆様への公募でお願いしたいと考えています。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

（猪名川　記）